

振り返ってみればもう昔

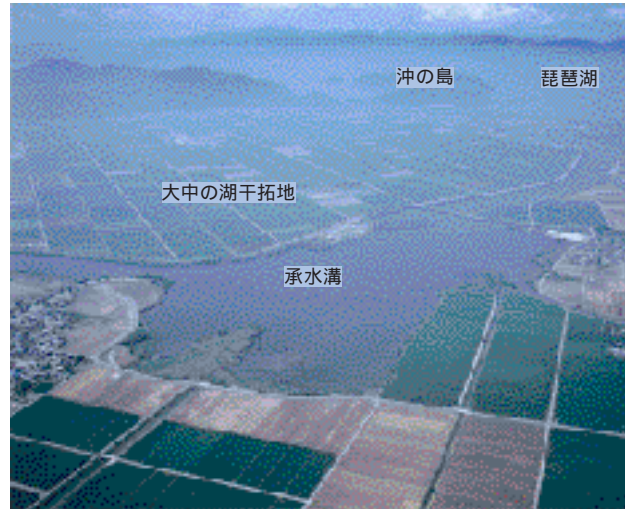
Looking back, it seems so long ago

自然の豊かな田園は、ほ場整備でご飯の目のように整地され、
 大中・小中の湖は干拓によって陸化され大農場に変わりました。
 また、水の恩恵を与えてくれる愛知川は、ときには大氾濫を起こし住民を困らせました。

大中の湖の干拓

琵琶湖周辺には、大中の湖をはじめとする水深2メートル前後の内湖や入江が40個くらいありました。これらの内湖は、魚貝類の繁殖場であり、また、河川から流れこむ汚水をいったんくいとめ浄化する役目もはたしていました。ところが、第2次世界大戦になって、食糧不足が深刻になってくると、その対策と失業者救済もかねて、昭和22年(1947)に小中の湖を干拓し、続いて39年6月に大中の湖も湖底を見せ、大農場へと変貌しました。

昭和41年に216戸(うち能登川町大中地区北部集落は72戸)が入植、多くの時間と費用をかけた干拓事業は完成しました。



かつての内湖は今は緑豊かな水田となっています。



田舟でも内湖を通過して近江八幡へ行き来していました。



昔は漁場だった内湖も多くの人の努力によって大農場になりました。



1戸あたり4ヘクタールを大型機械を使って経営し、稲作を中心に、花や野菜の栽培、肉牛の飼育など、幅広い生産をしています。

小中の湖の干拓



小中の湖干拓の堤防の桜並木に、かつて美空ひばりさんらが映画ロケに来たことがあります。



東海道本線の近くまで小中の湖は迫っていました。干拓されて50余年、昔を(懐)ぶものはほとんどありません。

港

湖上交通の拠点と漁港

能登川港

通称「浜能登川」と呼ばれるように、ここには港がありました。小中の湖、大中の湖、そして琵琶湖へと通じていたのです。いまの「琵琶湖汽船」の前身の「太湖汽船」の支社もあり、船問屋の蔵が建ち並び、運送業者の馬車や荷車が行き交ってにぎやかでした。西江州(湖西地方)の北小松のみかげ石や炭、薪、日用品など何でも扱っていました。現在、港の面影はなく、港跡は公園や駐車場になっていて、石垣がわずかに残っているだけです。

漁港

伊庭、乙女浜、福堂、栗見新田、栗見出在家などにあった漁港を統合し、昭和28年(1953)に「能登川漁業協同組合」をつくりました。現在の漁港は栗見新田の樋門拡幅工事に伴い、平成3年(1991)3月に栗見出在家地先に建設されたものです。この周辺でとれた魚介類はここから出荷されます。以前は100名をこえていた組合員も、いまは40名余りに減りました。

伊庭港やその他の港

内湖に面した集落は、それぞれに港をもって発展していましたが、いまは衰退し、その面影はほとんど見かけることができません。ただ、盛んだった頃に湖上交通の安全を祈願するため、四国の琴平と同じ金刀比羅神社が、伊庭地先にまつられました。「湖水安穩」と書かれた灯籠も現在残っています。



ここにある郵便局は、いまも「能登川港郵便局」と言います。



▲灯籠「湖水安穩」と刻まれています。



◀金刀比羅神社



栗見出在家地先に建設された漁業協同組合の建物と漁港